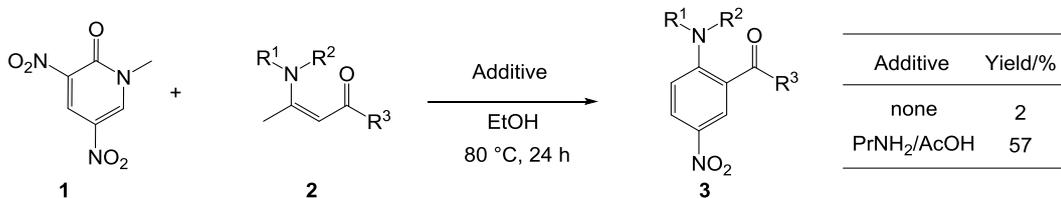


ジニトロピリドンとエナミノンをを用いた環変換反応

1160224 内藤早紀

Ring Transformation Using Dinitropyridone and Enaminones

Saki Naito



高度に電子不足であり、良い脱離基を部分構造として併せ持つ 3,5-ジニトロ-2-メチルピリドン **1** は求核型の環変換反応の優れた基質として働く。本研究ではエナミノン **2** を反応試剤として用いて **1** との環変換反応を行うことにより、官能基化された 4-ニトロアニリン誘導体 **3** の合成を行った。

封管中、ジニトロピリドン **1** とエナミノン **2** ($R^1 = \text{Pr}$, $R^2 = \text{H}$, $R^3 = \text{Me}$) を 80 °C で 24 時間加熱したところ、目的とする環変換生成物が得られたものの反応系は複雑であった。そこで、プロピルアミンの酢酸塩を添加したところ副反応が抑制され、ニトロアニリン **3** を 57 % の収率で得た。また、エナミノン **2** はその前駆体である 1,3-ジカルボニル化合物やアミンを替えることにより置換基の修飾が容易であることからこれらを用いて基質の適用範囲についても検討を行った。